

## 『なぜ日本は原発を止められないのか?』を読む

ジャーナリスト・青木美希さんによる写真の文春新書を読んだ。夢洲での万博や IR カジノに振り回されているので、久しぶりに原発関係の本と向き合った。青木さんの本は、『地図から消される街』を読んだことがある。

本書は次の7つの章から構成されている。第1章「復興」の現状は、第2章 原子力専門家の疑問、第3章 原発はなぜ始まったか、第4章 原子カムラの人々、第5章 原発と核兵器、第6章 作られる新たな「安全神話」、第7章 原発ゼロで生きる方法

本書冒頭は福島県漁連理事の柳内孝之さんの発言から始まる。「東京電力が事故で汚した海ですよ。汚染された海を浄化していくという話ならわかりますが、(福島第一原発から)海洋放出すれば、福島は震災前より悪化していると見られてしまいます。商売が立ちゆかなくなる可能性がある。仲間が苦しめられ、また命を失う人が出るかもしれない」

汚染水の放出の現場から始まり、原発の歴史と福島第一原発事故の真相と原子カムラ、そして原発ゼロに向けた課題と展望にせまる。数多くの関係者の取材による証言が掲載されており、説得力のある原発本である。ぜひ多くの人に読んでもらいたい。本書表紙カバー、「安全神話」に加担した政・官・業・学そして、マスコミの大罪!に注目した。本書の出版にも関わり、「原発とマスコミ」に関心があるので、「おわりに」の関連箇所を紹介したい。

原発問題は、声を大きく伝えてこなかった報道機関、原子カムラの一角だったマスコミにも重い責任がある。長く新聞社にいる一員としても、ここで声を上げることに躊躇してはならない。忘れれば、政府は再び同じ道を歩む。私たちの税金を使い、忘却させようとする大きなキャンペーンが行われている。微力でも伝え続けていくしかない。処理水放出が大きな波紋を引き起こしたこの時期に、理解ある出版社の方々の尽力で出版が実現することになった。

ところが、最終準備を進めていた2023年9月28日、会社は突如、職務による社外活動の場合は、「編集部門の確認(監修)を受ける」など「社外活動に関するガイドライン」を改定した。監修を受けることになれば、この本は成り立たなくなる可能性が極めて高い。第4章からメディアを抜くわけにはいかない。読者や、取材先への裏切り行為になるし、何より歴史への冒瀆だ。

手段を考えた。社名・肩書を表示せず、個人として行ってきたことで私益営利を目的としなければ、社に言う必要がない、と会社に以前、確認を取っている。私は事実を届けることを最優先にするため、原稿やプロフィールから所属している会社がどこかという表記を削ることにした。



(2023年12月17日)